

## 森と風のがっこうが目指すもの

吉成信夫（NPO 法人岩手子ども環境研究所）

キーワード：子どもの参画、食とエネルギーの地産地消、ESD、生活デザイン

森と風のがっこうは、標高 700m、11 世帯の集落にある廃校を再利用したエコスクール。宮澤賢治と環境共生の精神を糧に、2001 年、葛巻町の協力を得て岩手子ども環境研究所を主宰する吉成信夫（現理事長）が開設。「もったいない、ありがたい」を合言葉に、パーマカルチャーの生活デザイン手法を取り入れ、ESD 教育・自然エネルギー教育、エコロジカルな生活教育の場として、楽しみながら循環型の暮らしが実感できるハンドメイドの施設づくりを市民協同のスタイルでこの 10 年進めてきた。コンポストトイレ、空缶風呂、バイオガス装置をはじめ、環境共生建築のコミュニティカフェ、研修滞在可能なエコハウスもオープン。子どもの居場所づくりにも取り組む。北欧のライフスタイルと地場のくらしにまなびながら、過去と未来をつなぐ新たな道を模索している。平成 17 年版「環境白書」、「こども環境白書」にも取り上げられた。現在は、隣接する森を製紙会社から借受け、子育てと循環の森の整備を行いながら、森林環境教育にも注力している。また、葛巻町内のみならず、県内外の小中学校の省エネ学習の受け入れや、学校へのエネルギー教育出前授業などにも精力的に取り組んで来た。

昨秋には、太陽電池パネルを増強し、10 キロワット規模の発電設備の導入が完了。ポスト3.11 の自然エネルギー利用とこれからの暮らし方を楽しみながら体感できるテーマパーク化を視野に、子どもにやさしいハンズオン展示、サイン計画、森のえほんアトリエを一体整備した。今秋より出版部門を立ち上げ、森風文庫を刊行開始。

この法人は、次代を担う子どもたちの自主的、自発的な意欲を喚起し、それぞれの子どもの「未来へ生きる力」を育むために、都会を含めた新たな人々と地域のおとな、そして子どもたちがともに、積極的に関わることのできる仕組みの創造が求められていると考え、かつて地域の結節点であった廃校跡「森と風のがっこ



森と風のがっこう全体風景



子どもスクールの水車発電



子どもスクールの太陽光パネル

う」を新たな広場として位置づけ、「もったいない・ありがたい・おかげさま」を活動理念に掲げ、〈自然エネルギーと地域資源の再利用〉、〈子どもの居場所づくり〉、〈新たな農的暮らし〉、〈アートと身体〉をテーマに、子どもやおとなが元気を取り戻すための新たなアイデアに満ちた地持続可能な域モデルづくりを様々なかたちで実践提唱していくことを目的にしている。



太陽光発電による夜の森の賢治劇

2011年3月11日の起きた東日本大震災後、森風子ども災害援助基金を設立。被災地の保育施設改修の支援や、被災地の子ども招待スクール、遊びの出前講座を開始。自然エネルギーに関わる全国の主なNGOが被災地支援を行う「つながり・ぬくもりプロジェクト」構成団体メンバーでもある。

#### ▼設立の経緯

- 2001.1 任意団体として岩手子ども環境研究所を設立
- 2001.7 森と風のがっこうを開校、全国廃校再利用フォーラム開催
- 2001.8-10 自然エネルギー寺子屋（2002年、2007年～実施）
- 2003.4 パーマカルチャー講座開始（年8回、2004年も開催）  
文部科学省「廃校リニューアル50選」選出  
毎日新聞社「地方自治大賞奨励賞」受賞
- 2005 平成17年版環境白書、こども環境白書に掲載
- 2005.4 環境共生建築のコミュニティカフェオープン
- 2005.7 北いわてのスローツアーを開始
- 2006.8 くずまき・子ども自然エネルギースクールを実施（春休み、夏休みに開催。現在も継続実施）
- 2007.1 特定非営利活動法人認可
- 2011.3 東日本大震災を機に森風子ども災害援助基金設立。被災地の子ども支援開始
- 2013.2 子育てと循環の森を一般公開（土日）。毎日地球未来賞クボタ賞受賞。

#### ●代表者プロフィール

##### ▼吉成 信夫（よしなり のぶお）

1956年東京都大田区生まれ。

1981年成蹊大学法学部卒。心とからだのつながりを回復する身体手法を学ぶ。

CIコンサルティング会社役員（東京）等を経て、1996年岩手県東山町に家族と移住。「石と賢治のミュージアム」（一関市）研究専門員として、企画構想段階より開館後まで一貫して事業を推進。

2001年より廃校を再利用して「森と風のがっこう」を葛巻町に開校。2003年より7年間、岩手県立児童館「いわて子どもの森」（一戸町）初代館長として精力的な活動を展開した。現在は、森と風のがっこうコーチとして、北欧のライフスタイルと地場のくらしにまなびながら、過去と未来をつなぐあらたな道を模索している。「東北は日本の北欧である」がモットー。

国士舘大学21世紀アジア学部非常勤講師。日本エコツーリズムセンター世話人。その他、児童健全育

成、環境教育、地域づくり、子育て支援に関わるワークショップ、講演等多数。著書に「ハコモノは変えられる！子どものための公共施設改革」（学文社）、「地域再生のまちづくり・むらづくり」（ぎょうせい）、「ぼくたちが、がっこうで描いた未来—森と風のがっこうの12年—」（森風文庫）がある。

●活動拠点「森と風のがっこう」（旧上外川分校の廃校を再利用）

～もったいない、ありがたい、おかげさま～

●事業の内容

1.子どもの居場所づくりに関わるもの

チルドレンズミュージアム、プレイパークづくり、心とからだのワークショップの企画実施

2.エコロジー、エコライフに関わるもの

省エネルギー、自然エネルギー教育、環境教育、自然体験プログラムの企画実施及び教材開発。講師派遣。施設運営計画

3.地域振興に関わるもの

地元学研修プログラム、環境まちづくり計画

4.廃校再利用にかかわるもの

『森と風のがっこう』の企画運営、ネットワーキングづくり ほか

●研修、視察の受け入れ

団体向けに、森と風のがっこうにおける研修、視察の受け入れを行っている。

（日程：数時間～数日。テーマ：自然エネルギー、パーマカルチャー、廃校再利用、地域づくり、エコライフ、自然体験など）内容等については、ご相談下さい。

●活動実績

- ・ひきこもりがちな青年のための長期自然体験キャンプ（2001、2002年）
  - ・民間企業による自然学校設立のための企画構想（2001、2002年）
  - ・自然エネルギー寺子屋講座（2001、2002、2007年～現在）
  - ・子どもオープンデー（2002年～現在）
  - ・パーマカルチャー講座（2003、2004年）
  - ・食の寺子屋講座（2005、2006年）
  - ・スローツアーの企画運営（2005年～現在）
  - ・子どものための長期自然エネルギー体験キャンプ（2006年～現在）
  - ・子どものための自然体験キャンプ、被災地の子ども支援キャンプ、森風えほんフェスティバル
  - ・子ども会、フリースクール、中高生キャンプの企画、プログラム実施
  - ・各種指導者・支援者研修等の企画実施
- （自然体験、森のようちえん、子育て支援、児童健全育成、自然エネルギー、パーマカルチャーなど）

●連絡先

NPO 法人 岩手子ども環境研究所（森と風のがっこう）

028-5403 岩手県岩手郡葛巻町江刈 42-17

TEL&FAX.0195-66-0646

<http://www.morikaze.org>

[morikaze0@gmail.com](mailto:morikaze0@gmail.com)